なぜ踊る身体に心奪われるのか？

―バレエ鑑賞から探る美と感動の科学―

白鳥　茉衣
北海道大学 大学院文学院
心理学研究室

未来社会のあるべきかたち

- ✦ 誰もが「自分なりの美や感動」に出会える社会
- ✦ 芸術が、心身のウェルビーイングを支える社会
- ✦ 見え方・感じ方の違いを多様な価値として認め合う社会

あなたはダンサーのどこを見ていますか？



腕・手に注目！
→ 表現が繊細
→ 役の感情を想像

大きな動きに注目！
→ 自分にはできない
→ 身体的負荷を想像

群舞に注目！
→ 一体感がある
→ 音楽性が高い

足先に注目！
→ 軸が安定している
→ ポジションが正確

同じ踊りを見ても、注目する場所も、動きから受け取るものも人それぞれ

なぜこのように多様な鑑賞体験が生まれるのか？

本研究では、鑑賞者自身の「**専門性**」に着目

研究目的： バレエの見方・捉え方・感じ方に「**観る経験**」と「**踊る経験**」はどう関わるか？

方法： 質的研究と量的研究を混合した４段階のフロー

Step 1
鑑賞者20名にインタビュー
バレエのどこを見る？
何を感じる？
印象的なシーンは？

Step 2
53項目の質問紙を作成
すべて6段階で回答
例）
○○に目が向く。
○○が重要だと思う。

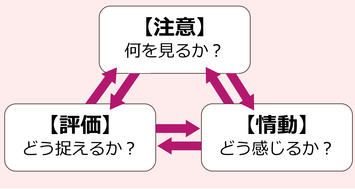
Step 3
バレエ鑑賞者907名にオンライン調査
質問紙への回答を収集

Step 4
2種類の経験から比較
観る経験
- ライト層
- ミドル層
- コア層

踊る経験
- 経験あり
- 経験なし

結果： 踊らなくても、鑑賞は深められる！

発見１
鑑賞体験は３つの働きから構成



発見２
「観る経験」が多い人ほど
- より多くの動きに注意を向け、
- より多様な観点から動きを捉え、
- より強く情動的に反応していた

発見３
「踊る経験」は動きへの着眼点に関係
- 経験×：目立つ動き に注目
- 経験○：上半身・体幹 に注目

誰もが芸術鑑賞を楽しむには？

では、鑑賞経験の少ない人にも作品の面白さが届く「見方の手がかり」とは？

→ **ダンサーの身体運動 × 鑑賞者の視線 × 鑑賞者の情動** を、実際の鑑賞中に測定



→ どのような動きが、どのような見方を通して、美や感動へつながるのかを解明

初めて観る人にも、経験を重ねた人にも、鑑賞を深める手がかりを届けたい！